生涯学習概論Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	17000	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　生涯学習社会の構築をめざした教育の取り組みや政策の展開について理解を深めるために、まず、これまでの生涯学習の流れや理論を把握し、次に、生涯学習や社会教育に関する法律や施策について知る。さらに、地域や学校、家庭と連携した教育実践、社会教育の専門的職員の役割についても基礎的な理解を図る。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 生涯学習社会の構築をめざす施策の基礎となっている教育論や法規について説明できる。	知識・技能
2	2. 生涯学習や社会教育に係わって、展開されている実践の内容や専門的職員の役割について、詳しく記述できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題提出５０％	1／2
2	試験（あるいはレポート提出）５０％	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション
2　今日の社会動向から生じる生涯学習と社会教育の課題
3　生涯学習・生涯教育論の原理と展開
4　生涯学習社会論（家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携）
5　生涯学習社会・知の循環型社会の構築にむけた取り組み
6　我が国の社会教育の異議と社会教育行政
7　国際社会における生涯学習の取り組み
8　我が国の生涯学習・社会教育関連法規および生涯学習振興政策について
9　生涯学習施設・社会教育施設
10　社会教育専門職員の役割と求められる資質・能力
11　自治体の生涯学習・社会教育の取り組み
12　身近な生涯学習実践を知ろう
13　学習支援のための学習情報提供・学習相談と生涯学習成果の認定
14　自分にとっての生涯学習を考える
15　まとめ

定期試験
定期試験（筆記試験または課題提出）
試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業外学習を積極的にすすめるため、学外の生涯学習・社会教育活動について調べて内容をまとめること。（予習約1時間、復習約1時間）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『よくわかる生涯学習（改訂版）』，香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編，ミネルヴァ書房　2016年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に指示する。
オフィスアワー
授業終了後（長時間の相談が必要な場合は、日時を打ち合わせる）
連絡先
マナバ確定後、連絡用スレッドをマナバに立てる。マナバ確定前のみmnishii@m.ndsu.ac.jp（マナバ確定後は、このアドには連絡しないこと。色々な授業や様々な連絡が多数届き、大変混乱するため。）
留意事項
マナバフォリオを活用する。本授業は、社会教育主事課程の科目として、シラバスを文部科学省に提出しているため、提出している内容で作成している。

生涯学習概論ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	17010	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

国際社会の動向をふまえながら、生涯学習に関する施策・取り組みについて考察する。近年、UNESCOやOECDなどの国際機関やサミットなど様々な国際会議において、生涯学習をめぐる議論や施策が展開されている。先進国のみならず、発展途上国や中進国における課題にも目をむけながら、総合的に生涯学習について考える。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生涯学習の本質について説明し記述することができる。	知識・技能
2	持続可能な社会について主権者として人権の基礎的判断ができる。	思考・判断・表現力
3	生涯学習の国内外の動向について解説できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度・発表（試験）５０％	1／2
2	課題提出５０％	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション
2　持続可能な社会への志向
3　国際社会における持続発展教育の提案と展開
4　日本における持続発展教育政策
5　グローバリゼーションと生涯学習
6　異文化理解の生涯学習
7　社会課題を捉える目を育てる：文化リテラシー
8　持続可能な社会における人権教育
9　様々なつかがりから生涯学習を考える
10　環境と自分とのつながり
11　岡山での国際的教育活動
12　生涯学習政策の動向
13　若者の生涯学習を考える（１）現状と課題
14　　〃　　（２）大学生にとっての生涯学習
15　まとめ

定期試験
定期試験（筆記試験または課題提出）
試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。（資料提示等）
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
参考事例などを随時紹介するので、授業外学習として、それらについてさらに調べて要点をまとめること。（約1時間）、関連する文献にあたり、理解したトピックスをまとめること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『ＥＳＤがグローバル社会の未来を拓く　-SDGｓの実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著、ミネルバ書房、2020年
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に逐次指示する
オフィスアワー
授業終了後（長時間の相談が必要な場合は、日時を打ち合わせる）
連絡先
マナバ確定後、連絡用スレッドをマナバに立てる。マナバ確定前のみmnishii@m.ndsu.ac.jp（マナバ確定後は、ここには連絡しないこと。様々な授業や色々な連絡があり、混乱するので。）
留意事項
マナバフォリオを活用する。本授業は、社会教育主事課程の科目として、シラバスを文部科学省に提出しているため、提出している内容で作成している。

生涯学習支援論I				単位数	2単位
授業コード	17060	科目ナンバリング	540Z0-1000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	原　明子				
時間割備考	9/4,5,6,7,8				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態					
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では、持続可能な社会を築くために必要な生涯学習の考え方に基づき、学習者の多様な特性に応じた学習支援について学びます。学習支援の理論だけでなく現場職員の話を聞くなどして実際を知るとともに、授業を通して参加型学習とファシリテーション技法を体験的に学び、実践できる基礎的な力をつけます。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	１．　学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び実際の現場を経験し、多様な学習者の特性に応じた学習支援のあり方について自分の考えを述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	２．　効果的な学習支援方法としての参加型学習プログラムの編成およびファシリテーション技法の基礎を習得し、学習プログラムを企画することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	振り返りシート、レポートの記述　５０％	1／2
2	授業への参加度、発表内容　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市のESD専従職員、ESDコーディネーターとして、学校や公民館、市民団体、企業など多様な主体の学びと実践をサポートした経験を生かして、持続可能な社会づくりの視点を取り入れた生涯学習の実践事例とその支援のあり方を紹介する。
参加体験型学習の手法で授業を行い、受講者が参加型学習を体験、実習できるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　　オリエンテーション、持続可能な社会づくりにおける生涯学習
2　　学習支援の実際（公民館訪問）
3　　学習支援の考え方（学習者の多様な特性）
4　　学習支援の実際（生涯学習体験報告）
5　　学習支援の考え方（学習支援者の役割）
6　　学習支援に必要な技能
7　　学習プログラムのしくみと構造
8　　学習プログラムの企画・立案
9　　参加型学習の進め方
10 ワークショップとは
11　ファシリテーションとは
12　参加型学習とファシリテーションの実際
13　参加型学習とファシリテーション演習（発表前半）
14　参加型学習とファシリテーション演習（発表後半）
15 ふりかえり、まとめ、レポート作成

定期試験
学習プログラム企画発表とレポート
試験のフィードバックの方法
発表した学習プログラムについて学外の実践者を交えて振り返る。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
集中講義のため途中で訪問する時間がとれないと思うので、初回の授業までに、どこでもよいので生涯学習が行われている場所を訪問し、どのような施設でどのような人が何のために利用していたか、他の人に紹介できるようにしておいてください。 次週に予定されているテーマについて、各自が調べたり考えたりしたことを授業でシェアできるようにしておくこと。（約１時間）
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は授業後またはメールで受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）
連絡先
s8325@m.ndsu.ac.jp ０８０−３８７３−５６２６
留意事項

生涯学習支援論II					単位数	2単位
授業コード	17070	科目ナンバリング	540Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	三浦　隆志					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現在、生涯学習に対する期待は高い。人生１００年時代と言われて久しいが、リスキリングと呼ばれるような大人の学び直しや小中高等学校での「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」での探究学習は、生涯学習への橋渡しの観点やその学びを踏まえた内容の充実が求められている。
本授業では，生涯学習について、これまでの自らの学習経験と関連付けながら，学びを幅広い視点から捉え直し，学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能を習得することを目指します．具体的には，ワークショップや参加型学習、ファシリテーションの技法について基本的な知識や技能を学び、実践を体験します。つまり、、理論と実践の往還によって，生涯学習のプログラムを作成する活動を通じて実践的に学ぶ場を用意します．特に，グループディスカッション，プレゼンテーション等を組み合わせた授業を展開しますから，学生の主体的な参加を必要とします．

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	幅広い視点から教育や学習を捉え，学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能を理解し、説明することができる．	知識・技能／思考・判断・表現力
2	学習者が抱える課題の把握や分析ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	学習のプログラムを構築する設計方法やコミュニケーションスキルを学び、得られた知識・技能を活用することができる．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	学習者の自主的・自発的な学びを促す支援やコーディネートすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業態度・演習の成果物・振り返りシート（50%）	1／2／3／4
2	期末レポート（授業総括レポート）（50%）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校・高等学校の社会科、地歴公民科の教師として３０年以上、教壇に立ってきた。教科指導とともに、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発に関わってkきた。近年では教育工学や学習理論の研究を通じて大学から社会に繋がる学びについて研究してきた。また、この１０数年は、NPO法人等のメンバーとして岡山県内外で様々なワークショップを行っている。小中高等学校生から社会人までその範囲は広い。様々な形で生涯学習支援に取り組んできた実務経験を活かし、生涯学習支援の現場で社会教育主事に必要な実務上の知識とスキルの伝授と指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回（講義）オリエンテーション（授業のねらいと概要、シラバスの説明等）
第2回（講義）生涯学習支援に関する概念を整理する（生涯学習論やESD・SDGsなど）
第3回（講義・演習）地域社会における生涯学習の役割と課題を考える
第4回（講義・演習）事例研究１：生涯学習に絡めたまちづくりの実践を知る
第5回（演習・演習）事例研究２：学校と地域連携の活動を知る
第6回（講義・演習）生涯学習（社会教育）は学校教育とどのように連携するか
第7回（講義）生涯学習（社会教育）の方法・手法を知る①
第8回（講義）生涯学習（社会教育）の方法・手法を知る②
第9回（講義・演習）新しいタイプの学びの形態を知る
第10回（講義）学習プログラムをどのようにデザインすればよいか
第11回（演習）学習プログラムの作成（グループワーク）①【課題設定】
第12回（演習）学習プログラムの作成（グループワーク）②【情報収集と分析】
第13回（演習）学習プログラムの作成（グループワーク）③【プログラム案の開発】
第14回（演習）学習プログラムの作成（グループワーク）④【プログラム案の共有】
第15回（講義）まとめ（全体のふりかえり総括）

定期試験
適宜出されるレポート課題や振り返りシートをもって試験に代える。特に、15回目の授業の終了後に出してもらう授業総括レポートを重視する（50%）。授業総括レポートには、この授業で自分は何をどう修得し、今後にどう活かしていきたいかを記述してもらう。
試験のフィードバックの方法
レポート課題や毎回の振り返りシートの内容をに毎回、共有する時間を設ける。最終レポートについては、全員でその内容を共有して全員でフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習として、授業の中で提示した課題や次回の授業テーマ等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること（約1時間）。 復習として、授業のレジュメや授業メモ（記録）等を用いてふりかえり、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく（探究する）こと（約1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて適宜、授業の中またはManaba folioの掲示板等において提示する。
オフィスアワー
質問は随時、電子メールで受け付ける（メールアドレス…s5109@m.ndsu.ac.jp）
連絡先
メールアドレス…s5109@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会教育経営論I					単位数	2単位
授業コード	17100	科目ナンバリング	540Z0-3000-x2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	松橋　義樹					
時間割備考	9/4,5,6					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会教育主事としての職務及び求められる資質・能力を踏まえ、「学び」の成果を戦略的な視点から、様々な主体と連携・協働を図りながら地域課題解決・まちづくり支援及び地域学校協働等の活動に繋げていくため、講義及び演習（グループワーク及びプレゼンテーション）を通して必要な知識及び技術の習得を図ります。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会教育行政と地域活性化の関連について、複数の観点から説明することができる。	知識・技能
2	社会教育における地域人材の育成について、具体的事例をもとにプログラムを企画することができる。	思考・判断・表現力
3	社会教育を推進する地域ネットワークの形成について、地域の特性を踏まえながらそのプロセスを検討することができる。	思考・判断・表現力
4	社会教育施設の経営戦略について、施設の種類に応じた戦略のポイントを説明することができる。	思考・判断・表現力
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	第５回の授業後に提出する演習成果物（25%）	1／2
2	第10回の授業後に提出する演習成果物（25%）	3
3	第15回の授業後に提出する演習成果物（50%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1回　地域活性化に資する社会教育の役割
第2回　社会教育行政による地域活性化の取組
第3回　社会教育における地域人材育成の視点
第4回　社会教育におけるコーディネーターの役割
第5回　社会教育における地域人材育成の実際
第6回　社会教育を推進する地域ネットワークの視点
第7回　社会教育行政とNPO・企業等との連携・協働
第8回　家庭・学校・地域の連携・協働
第9回　コミュニティ・スクールの実際
第10回　地域学校協働活動の実際
第11回　社会教育施設経営の視点
第12回　公民館・生涯学習センター等の経営
第13回　図書館・博物館・青少年教育施設等の経営
第14回　社会教育施設のネットワークの実際
第15回　社会教育行政の戦略的経営のこれから

定期試験
演習における成果物（第5回・第10回・第15回の授業後時にそれぞれ提出）の内容で評価します。 評価の割合は、第5回及び第10回の授業後の成果物：各25%、第15回の授業後の成果物：50%とします。
試験のフィードバックの方法
演習成果物について、良かった点や改善すべき点をプレゼンテーション時にコメントします。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・予習として、事前に配布する資料の論点及び疑問点を整理してください。（各回につき2時間分） ・復習として、授業の内容が自身の日常生活及び様々な学習活動とどのように関連している（今後関連すると考えられる）のか整理してください。（各回につき2時間分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 参考書は授業時に紹介します。
オフィスアワー
質問等は授業後またはEメールで受け付けます。
連絡先
s8293@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本科目は、９月集中講義日のうち３日間連続で開講されます。

社会教育経営論II					単位数	2単位
授業コード	17110	科目ナンバリング	540Z0-3000-x2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	田中　純子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会教育行政や社会教育施設経営の基礎となることを講義や演習をとおして理解する。社会教育経営の具体例として公民館を取り上げ、岡山市内の公民館を訪問して、公民館現場の事業や経営の実際と課題を知り、その改善計画（プロジェクト型事業）を立てる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会教育主事としての仕事の基礎となるマネジメントの考え方と、それを基本とした事業の企画や運営の概要を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	社会教育の現場となる公民館の経営の実際を知り、マネジメントの考え方をもとに公民館経営の具体的な改善策を企画することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	他者と対話し、知恵を出し合い、共同して物事をすすめることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	振り返りシート、最終レポートの記述：50%	1／2
2	発表内容：30%	1／2／3
3	討議への貢献度：20%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

社会教育主事として長年、公民館に勤務し、事業を計画、実施してきた経験から、社会教育主事として必要な知識や力を伝授し、具体的な公民館経営の改善策の企画を立てるワークをつうじて学生が現場で役立つスキルを身につけられるように展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション、社会教育とESD・SDGs
2. 社会教育行政の経営戦略
3. 学習課題の把握と広報戦略
4. 社会教育における地域人材の育成
5. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成：地域・学校
6. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成：企業・NPO
7. 学習成果の評価と活用の実際
8. 公民館経営の実際：岡山市の公民館経営・事業計画
9. 公民館経営の実際：現地調査（職員）
10. 公民館経営の実際：現地調査（市民）
11. 公民館経営の実際：改善計画の立て方
12. 公民館の改善計画の立案：企画
13. 公民館の改善計画の立案：企画・発表準備
14. 発表
15. まとめ

定期試験
公民館経営の改善計画とレポート
試験のフィードバックの方法
発表した改善計画について学外の実践者を交えて振り返る。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・（予習）事前に配布する資料等を読んでおき、論点や疑問点を整理しておいてください。（約１時間） ・グループでの作業が授業時間内に終わらない場合、授業外での学習（作業）が発生する可能性があります。
必携書（教科書販売）
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ ・毎回の授業でプリントを配布します。 ・『社会教育経営論』浅井経子編、2020、ぎょうせい ・『社会教育経営のフロンティア』田中雅文・中村香編、2019、玉川大学出版部
オフィスアワー
質問は授業後またはメールで受け付けます。（メールアドレスは初回授業時に提示）
連絡先
留意事項
公民館での授業のために岡山市内の公民館に出かけることがあります。本科目は水曜日に設定されているが岡山市内の公民館は水曜日は休館日のため、公民館での授業は土曜日に実施することになります。日程は未定ですが、受講生と当該公民館のスケジュールを調整して決定します。

社会教育実践演習					単位数	4単位
授業コード	17130	科目ナンバリング	540Z0-3400-x4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	成清　仁士、西井　麻美、Jason Williams、池田　満之					
時間割備考	8月（詳細は実習担当者から通知します）					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義／３実験・実習・実技					
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

グローバルな視点を持つとともに地域の実情に即した探求をめざし、地域で取り組まれている活動や社会教育に係る事業などを調べ、実際に地域に出向いて視察することを通して、具体的な地域課題等を題材とした社会教育事業の立案等に向けた演習を行う。
さらに、社会教育施設等における実習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	グローバルな社会の動向を理解した上で学習活動のあり方を検討することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	学習課題に結びついている地域課題・生活課題について地域の実情に応じて理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	社会教育主事の職務を遂行するにあたり求められる実践的資質および能力の基礎を培うことができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	講義に関するレポート 20%	1／2
2	視察研修に関するレポート課題 30%	2／3
3	演習・実習に基づくレポート 30%	2／3
4	グループ調査研究発表 20%	1／2／3
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

（池田）岡山ユネスコ協会理事として25年以上、環境カウンセラーとして20年以上、公民館を事務局とした岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会会長等として15年以上、社会教育施設で社会教育主事等と社会教育に取り組んできた実務経験を活かし、現場で社会教育主事に必要な実務上の知識とスキルの伝授と体験指導並びに効果的な現場実習のためのコーディネート等を行います。現場体験の中で社会教育主事や社会教育士の現場実務を体感してもらえるようにします。特に気づきを促し、受講生が主体的に学び、力をつけていく教育を行います。
(成清)倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や、中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、まちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、学生に実践的な問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	英語（Williams）

授業予定一覧

第1回 講義 今日の社会と社会教育・生涯学習（オリエンテーション）（成清・池田）
第2回 演習 持続可能な社会に向けた社会教育・生涯学習（成清）
第3回 講義 Internationalization of Japanese Society（ジェイソン・ウィリアムズ）
第4回 講義 Internationalization and Education・Educational Issues（ジェイソン・ウィリアムズ）
第5回 講義 地域活動の実践事例を学ぶ（成清）
第6回 講義 地域活動の実践事例の方法論（成清）
第7回 演習 地域活動の実践事例の視察研修（成清）
第8回 演習 地域活動の実践事例に係る意見交換（成清）
第9回 講義・演習 資料収集について（レファレンスについて）（成清）
第10回 講義 Internationalization and Societal Issues（ジェイソン・ウィリアムズ）
第11回 講義 Internationalization and Societal Support（ジェイソン・ウィリアムズ）
第12回 実習 公民館等での実習のためのオリエンテーション(池田)
第13回 実習 公民館等での実習に必要な基礎知識とスキルを学ぶ（池田）
第14回 実習 公民館等で社会教育主事が行う社会教育のプランニングの現場実習（池田）
第15回 実習 公民館等で社会教育主事が行う企画会合のコーディネートの現場実習（池田）
第16回 実習 公民館等で社会教育主事が行う企画会合のファシリテートの現場実習（池田）
第17回 実習 公民館等での社会教育事業の企画のまとめと準備に向けた現場実習（池田）
第18回 実習 公民館等での社会教育事業の準備会議の進行に関する現場実習（池田）
第19回 実習 公民館等での社会教育事業の準備会議のとりまとめに関する現場実習（池田）
第20回 実習 公民館等での社会教育事業の実施に必要な資料作成等に関する現場実習（池田）
第21回 実習 公民館等での社会教育事業の開始前の準備に関する現場実習（池田）
第22回 実習 公民館等での社会教育事業本番における社会教育主事の役割の実習（前半）（池田）
第23回 実習 公民館等での社会教育事業本番における社会教育主事の役割の実習（後半）（池田）
第24回 実習 公民館等での社会教育事業の実施後の処理に関する現場実習（池田）

第25回 実習 公民館等での実習を現場の社会教育主事との対話でふりかえる（池田）
第26回 実習 公民館等での実習から学び得た社会教育主事の職務についての総括（池田）
第27回 講義 2期オリエンテーション・地域プロジェクトの企画づくりを学ぶ（成清）
第28回 講義 学生主体の地域プロジェクトの実践事例から企画づくりの戦略を学ぶ（成清）
第29回 演習 学生主体の地域プロジェクトの実践事例の視察研修（成清）
第30回 演習 学生主体の地域プロジェクトの実践事例に係る意見交換（成清）
第31回 講義・演習 視察研修のまとめ（成清）
第32回 演習 グループ調査研究発表の準備1：討議（西井）
第33回 演習 グループ調査研究発表の準備2：スライド作成（西井）
第34回 演習 グループ調査研究発表の準備3：レジュメ作成（西井）
第35回 演習 研究発表1：1～4（西井）
第36回 演習 研究発表2：3～4（西井）
第37回 演習 研究発表3：5～6（西井）
第38回 演習 まとめ（西井）

定期試験

レポート、発表

試験のフィードバックの方法

留意点について解説する（資料提示等）。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

参考図書・資料を各自で読んで内容をまとめること。(予習約1時間、復習約1時間)

必携書（教科書販売）

西井担当：『新版・生涯学習概論』，鈴木眞理・大島まな・大木真徳編，樹村房， 2023年（予定）（2期の教科書販売にて購入してください）

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

月曜3限（13:00～14:30）ノートルダムホール東棟355ND研究室（成清）
また、授業終了時に教室で質問等を受け付ける。
さらに、メールにて質問等を受け付ける。

連絡先

成清：narikiyo@m.ndsu.ac.jp
Williams: williams@m.ndsu.ac.jp
池田：ikd@mxt.mesh.ne.jp
西井：マナバに連絡用スレッドを立てる

留意事項

・本科目は社会教育主事の任用資格を得るために開講される科目である。
・実習1単位（池田担当）が含まれます。
・西井担当は、オンデマンド（マナバフォリオ利用）とする場合があります。また、グループ調査研究発表は、単独調査発表に変更する場合があります。